

昭和二十二年六月十二日 (第三種郵便物認可)
令和元年六月十三日発行 (毎月一回十三日発行)

定価 五〇〇円

第933号

龍

跳

秋季昇段・級試験課題発表

第七十五卷

7
月号

高知
龍跳書道会

伊藤東海書 作品集(3)

鳥喧時鶴一聲

百花開處松千尺衆鳥喧時鶴一聲

雁塔聖教序

褚遂良



大唐三藏聖教序。太宗文皇帝製。蓋聞。二儀有象。顯覆載以含生。四時
大唐太宗文皇帝製。三藏聖教序。蓋し聞く。二儀に象有り。覆載に顕われて以て生を含む。四時に

雁塔聖教序

褚遂良

三藏法師こと玄奘（六〇二―六六四）は十七年に及ぶインド遊学を終え経論六五七部を携え長安に帰着。玄奘の漢訳仏典に太宗が序を「（皇太子）高宗」が記を作った。これがもとで雁塔聖教序の名がある。

「聖教序」の筆者は褚遂良 五十八才の筆になる。その書は弾力性豊かで細い、太い、強い、弱いの変化が多く、清らかな風韻を奏でている。

褚遂良の楷書中最晩年の作である。独自の書法を完成して最優作と言われている。

（書道資料集、書の世界参考）

廣末幽念書

江碧鳥逾白山青花欲然今春看又過何日是歸年

江碧鳥逾白山青花欲然今春看又過何日是歸年

弘田賀峰書

蘆葉有聲疑露雨浪花無際似瀟湘

蘆葉有聲疑露雨浪花無際似瀟湘

賀峰書

梅
川
桂
龍
書

安
禪
制
毒
龍

安禪 あんぜん
毒龍を制す どくりゅう

6月20日締切

梅
川
桂
龍
書

庭 八
秋 月
洞

八月
洞庭どうていの秋

7月20日締切

福
原
暁
雲
書

茶 根
煮 泉
石

茶^{ちや}は煮^にる石根^{せきこん}の泉^{いずみ}

大 三
唐 藏

出 間 桂 堂 臨

褚 遂 良

雁 塔 聖 教 序

大 唐 三 藏

岡林邦心臨

以憲郡今直罷任旅
食許下素為廉吏

邦心以

江西澄翠書

雲開遠障碧
雨過落華紅
半嶺

江西澄翠書

中 平 美 峰 臨

康安般為 光仁 興福寺 光宅
般不惠讚 大安寺 光惠 山階寺

美峰

岡 本 空 仁 臨

以種波切桃生
也為壽種

空仁

印

江夏安陸人也其先
徙里成仁繼跡於

坂本絢子

春去能忘詩共賦客
來初是酒頻賒

弘田賀峰

孤夢相友四令也
然之書已令也

西村由香

聞之端揆者百寮之
師長決疾王太人

野中恵花

大酒直須報謹問大
常祠書掇馮平史

武内美仁

立勢向河而者高
法座何以曾之

大八木洋女

再振悚惶之惶拂拂
曾而啟卷室

水田紅子

蓋聞二儀有像顯覆
載以含生四時無

大崎紫陽

星移兮南飛以非
曹而憶之詩手

濱田千代

蒙之玄法為法名士
雖強信為強信

浜崎洋介

条幅当選作品

福原 曉雲

選評

★天位

坂本絢子君 楷書は基本である。筆よく立ち骨格がしっかりして、流れが良い。

弘田賀峰君 やゝ規模小だが、流れ布置章法良く、品位有。

西村由香君 文字大小、潤渴を取り入れメリハリを付けているが少し運筆が速い様、画仙紙に食い込む線も欲しい。

野中恵花君 争座位の線ももう少し運筆リズムをゆつくり書して欲しい。

武内美仁君 この書法手慣れてはきているが、今後更に隸の研究をして欲しいものです。

★地位

大八木洋女君 一気呵成に書してはいるが、これに墨の潤渴を思い切って取入れたいものです。

水田紅子君 懷素千字文、文字間に注意し縦長に文字を書して。

大崎紫陽君 集字聖教序、線質、骨格の勉強をして下さい。この作品臨書は良いものに取り組んでいる意欲を買います。

★人位

濱田千代君 流れ、文字の大小等はいいが、崩しをよく研究して下さい。

浜崎洋介君 この作も流れは良い。書譜の線質を勉強して下さい。

作品は毎月20日必着
(必ず守って下さい)

▷ 次回審査会 ◁

6月の審査は23日(日曜)午前9時30分に開始
します。審査会場は**高知城ホール**です。

龍跳展出品票を提出して下さい。(出品料同時納入)

急流の上の

7月20日締切

花鳥
風月

谷の水川

7月20日締切

小学五年課題

山下枝雪書

覚
え
書
き

7月20日締切

川天の

7月20日締切

小学三年課題

大原桂園書

川風

7月20日締切

せみ

7月20日締切

小学一年・ようち・ほいく課題

山本瑞草書

うり

7月20日縮切

学校名		調	が	う	冷	き	
		な	あ	に	静	に	伝
六年		ど	り	言	に	は	え
級段		も	ま	葉	受	相	に
氏名		考	す	や	け	手	く
		え	。	表	止	に	い
		ま	伝	現	め	正	こ
		し	え	を	て	確	と
		よ	る	選	も	に	を
		う	と	ぶ	ら	伝	伝
		。	き	必	え	わ	え
			の	要	る	り	る
			口		よ		と

学 校 名	
五 年	
級 段	
氏 名	
芭蕉が、旅を記した紀行文で	「おくのほそ道」は、松尾
す。旅先で見聞きたことに	
心を動かされ、書きつづる気	
持ち今は、今のわたしたちと同	
じだったのでしょうか。	

学校名							
四年							
級段							
氏名							
	一つの花を見つめながら。	ゆみ子のにぎつている、	て行つてしまいましたが。	も言わずに、汽車に乗っ	てにっこりわらうと、何	お父さんは、それを見	

小学三年課題
野中恵花書

学校名	作	心	遊	ぐ	し	
	ら	ぼ	ぶ	り	て	ず
	れ	う	こ	は	楽	ぐ
三年	て	の	と		し	り
級段	い	先	が	雪	む	は
氏名	ます	が	で	の	こ	
		太	き	上	ま	雪
		く	る	で	で	の
			よ	回	す	上
		丸	う	し		で
		く	に	て	ず	回

7月20日締切

がっこう						
	う	た	休	じ	た	
	を	く	ま	く	ん	
		さ	せ	を	ぼ	
二	お	ん	て		ぼ	
ねん	く	の		し	は	
きゆう	り		た	ず		
なまえ	ま	え	ね	か	花	
	す。	い	に	に	と	
		よ				

小学一年課題 藤田桂苑 書

がっこう	で	て	し	「
	す		た	き
一	し。	き	に	み
ねん		た	ひ	の
きだ			っ	
ゆうん		も		い
なまえ		ぐ	こ	え
		ら	し	の

7月20日締切

がっこう				
ほ ねん	み	か	そ	か
	つ	た	ば	き
だ きゆう う	け	つ	で	ね
なまえ	た	む		の
	よ。	り		
		を		

秋季昇段試験作品募集

▽第一部 (準師範) 一般部段位、級位の者

○課題

不知細葉誰裁出 二月春風似剪刀

知らず細葉 誰か裁ち出だせる 二月の春風 剪刀に似たり

○右の詩句を画仙紙半折に楷、行草体の二枚と一ページの雁塔聖教序より、十二文字以上を臨書して計三点出品のこと。

○作品は無落款とし、作品毎に裏面左下にエンピツで現段級位と氏名を明記すること。

○当選者は準師範以下相当段位に認定編入する。

▽第二部 一般部級位の者

○課題

春色濃於酒

春色酒よりも濃こまやかなり

○右を楷、行、草の三体を半紙三枚出品のこと。

○作品を楷、行、草の順に縦に貼つぎすること。

○作品は無落款とし、作品裏面左下にエンピツで現級位と氏名を明記すること。

○当選者は初段以下相当段級位に認定編入する。

☆出品料 第一部・六千円／第二部・四千円

(作品と同時に納入してください)

第一、二部参考手本を希望される人は本会役員に直接申込んで下さい。潤筆料は条幅三点につき一万五千元、半紙三点につき五千元。

▽学生・学童の部 (毛筆部)

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○規格は半紙。一人一点とします。

○書体は自由です。

○作品の裏にエンピツで学年、現段級位、氏名を書くこと。

○作品の表には絶対に書いてはいけません。

○出品料 五百円

▽硬筆作品

○課題の文字は龍跳七月号(七月二十日締切)の課題字句とします。

○それぞれの学年に応じた硬筆用紙に規定の字句、学校名、学年、現段級位、氏名を正しく書いて出品してください。

○出品料 五百円

△作品の締切 令和元年八月二十九日(木) 必着のこと。

△審査日時 令和元年九月一日(日)

午前九時三十分より

△審査場所 高知城ホール

△受験作品送付先 〒783-0081 南国市片山四九〇

西山極山 宛

電話(088) 86518857

⑨ 封筒表に「昇試作品在中」と明記する事

薄暮空 譚曲 荒角出	薄暮空 譚曲 唐山	薄暮空 譚曲 松山	薄暮空 譚曲 松山	薄暮空 譚曲 松山	薄暮空 譚曲 松山	薄暮空 譚曲 松山	薄暮空 譚曲 松山
薄暮空 譚曲 大蔵吉	薄暮空 譚曲 悠道玄	薄暮空 譚曲 光翠	薄暮空 譚曲 光翠	薄暮空 譚曲 光翠	薄暮空 譚曲 光翠	薄暮空 譚曲 光翠	薄暮空 譚曲 光翠
薄暮空 譚曲 リエ	薄暮空 譚曲 一花	薄暮空 譚曲 美子	薄暮空 譚曲 美子	薄暮空 譚曲 美子	薄暮空 譚曲 美子	薄暮空 譚曲 美子	薄暮空 譚曲 美子
薄暮空 譚曲 上	薄暮空 譚曲 紀美子	薄暮空 譚曲 美知	薄暮空 譚曲 美知	薄暮空 譚曲 美知	薄暮空 譚曲 美知	薄暮空 譚曲 美知	薄暮空 譚曲 美知

(一段目) 北代碧山 選評
 桂峰君 〓 おちつきあり、安定しているも、や、迫力を欠く。
 桂山君 〓 丁寧に書いている。
 賀峰君 〓 手馴れた書なるも、出だしの「くさかんむり」不調。
 雄山君 〓 全体としてよく整っているも「渾」の字不調。
 洗雨君 〓 まじめな書。これに筆力が高い。
 (二段目) 森本瓊象 選評
 空仁君 〓 練度高く格調高く品位がある。
 玉水君 〓 力強く迫力のある作。
 光翠君 〓 筆の開閉がうまくできている。
 悠道君 〓 堂々とした作。「曲」の字やや大か。
 太蔵君 〓 線が堅い。筆の弾力を生かして書くといよい。
 (三段目) 梅川桂龍 選評
 里仙君 〓 温和な作で佳。
 和君 〓 丁寧に書いて明るい。
 英子君 〓 やや線が単調だが良くまとめている。
 一花君 〓 筆先がよくきいて、筆圧の変化あり佳。
 りえ君 〓 堂々としていて屈託が無い書きぶり。
 (四段目) 塚地桂峰 選評
 彩華君 〓 伸びやかな線で良くまとまっている。
 圭子君 〓 力強く堂々とした作。
 美知君 〓 線質良く明るい作。
 紀美子君 〓 力強い作。
 吉孝君 〓 気力あり、伸びやかな作。

永和九年
歲在癸卯

予之在
陽而

乎陰
聖教

缺而

永和九年
歲在癸卯

永和九年
歲在癸卯

安得保
聲於

曾閑

永和九年
歲在癸卯

永和九年
歲在癸卯

引谷澗
宮城

西極注
法雨

永和九年
歲在癸卯

永和九年
歲在癸卯

是使學
校刻脩

永和九年
歲在癸卯

永和九年
歲在癸卯

永和九年
歲在癸卯

野多滯
穗是時

永和九年
歲在癸卯

(一段目) 出間桂堂 選評
皓月君 堂々として筆圧効き自信に満ちた作。

澄翠君 益々の古典の感深し、温和整正の作。

桂春君 落ちついた線で気力充実の作。

望春君 真面目で誠実。よい作品です。

(二段目) 大黒仙雲 選評
花梢君 流れよく達者な字だ。

空仁君 なめらかな草体に見えるがまだ線が浅い。

里花君 蘭亭臨まだく柔らかな流れがほしい。

宏子君 毛先が利いた所もあるが、「永和九」の三文字がたい。

彰二郎君 線に柔らかなさはあるがまだく行意には届かない。

恵子君 蘭亭の原本を見て開いた線を習ってほしい。基本中の基本である。

(三段目) 岡崎緑水 選評
里仙君 温かい線で好感の作。一幅としてのまとまりも良い。

妙慧君 力強く安定感のある臨。祥君 落ちつきあり、原帖をよく見ている。

竹山君 線強く整正にして佳。

利恵君 抑揚のある線で作品が安定している。

(四段目) 前田秀華 選評
知勢君 練度高く流れが自然。

圭子君 伸びやかに温かみのある作。

夏海君 無難に臨してこれからが楽しみ。

美知君 小粒ながら味わいのある線質。

園江君 誠実な運筆ですが、一行目の「九」のバランスが悪い。

緑の街
路樹
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

小三 佐藤 千枝
南 六年 森島 孝行
五年 大平 彩詠
三年 江崎 知子
二年 佐々木 北村 蓮花

緑の街
路樹
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

小三 佐藤 千枝
南 六年 森島 孝行
五年 大平 彩詠
三年 江崎 知子
二年 佐々木 北村 蓮花

緑の街
路樹
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

小三 佐藤 千枝
南 六年 森島 孝行
五年 大平 彩詠
三年 江崎 知子
二年 佐々木 北村 蓮花

緑の街
路樹
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

小三 佐藤 千枝
南 六年 森島 孝行
五年 大平 彩詠
三年 江崎 知子
二年 佐々木 北村 蓮花

世界
紀行
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

北陸 二年 坂 聡明
知念 六年 松本 美花
多摩 五年 橋田 夕菜
会津 四年 松井 雅希

世界
紀行
羊毛の筆
書き取り
書き取り
書き取り

小三 佐藤 千枝
南 六年 森島 孝行
五年 大平 彩詠
三年 江崎 知子
二年 佐々木 北村 蓮花

(一段目) 中学部
岡林 邦心 選評

絵 君 〓 どりりして安定して良い。
日葵君 〓 温かみのある線で明るい。
薫佳君 〓 のびやかで良い。
恋子君 〓 流れよくまとめている。
那羽君 〓 落ちついて良くまとめている。
悠月君 〓 どりりとして良い。一字目と三字を少し上から書くといい。

(二段目) 小学六年 武内 美仁 選評

美羽君 〓 伸びやかな線で良くまとめます。
琴子君 〓 筆がよくたつて、明るく仕上りました。
彩巴君 〓 落ちついてゆつたりと書けました。
芽途君 〓 素直にいてねいに仕上りました。
美桜君 〓 明るくてリズムよく書けました。
優加君 〓 バランスよく上手に仕上りました。

(三・四段目) 小学五年 松下 紫香 選評

彩詠君 〓 堂々と書けています。
柚乃君 〓 伸びやかに書けました。
菜那羽君 〓 落ちついてよくまとまっています。
虎之助君 〓 力強く堂々と書けました。
夕苺君 〓 伸びやかで良い。
明璃君 〓 堂々としています。この調子で。
直亮君 〓 ていねいに書けています。
季也君 〓 よくまとめています。
真尋君 〓 元氣よく書けました。
凛乃君 〓 力いっぱい書けていて良い。
柑奈君 〓 元気に書けています。がんばってネ。
(四段目) 小学四年 佐々木 港花 選評
陸 君 〓 落ちついてゆつくり書いています。

多
期
風 子 上
四年 昔三 相 原

風 子 上
四年 西村 袖手

風 子 上
四年 渡邊 紗己

風 子 上
四年 川崎 妙己

風 子 上
四年 二橋 小 幸江はな

風 子 上
四年 江島 小 幸西 果純

風 子 上
四年 大重 小 武林 青星

風 子 上
四年 大重 小 小星 康三子

水 音
三年 是田 まな

水 音
三年 須藤 三 治田 忠音

水 音
三年 三井 金美子

水 音
三年 日 昭かき

水 音
五年 上村 さつ子

水 音
二年 二宮 ゆき

水 音
五年 川上 きな

水 音
五年 三井 一 つまみ

水 音
五年 福永 りこ

水 音
五年 飯田 ひかり

おと
二年 森田 子香

おと
四年 岡上 直里

おと
五年 小井 ぶん 西森 はるか

おと
五年 小 もり みつみ

おと
五年 とうろね なでしこ

おと
五年 山本 みのり

風 君 元気に書けました。

袖季君 落ちついて良くまとまりました。

紗己君 力強くまとまりました。

ひなほ君 いていねいに書けました。

はな君 落ちついてよくまとまりました。

果穂君 いていねいで良い。がんばりましょう。

青星君 力強いです。がんばれがんばれ。

ここな君 落ちついていていねいに書けました。

(二・三段目) 小学三年 深瀬緑堂 選評

まな君 ゆつたり大きくうごいて書けています。

真音君 力強い線です。まとまっています。

愛莉君 堂々としているがもう少しゆつくり書くと

まだ良い。

楓 君 のび／＼して明るい作。

彩月君 いていねいに書けました。

有佳子君 おちついて良く書けています。

紗奈君 元気がいいに書けています。

まりな君 うごきよく明るい作。

りこ君 しっかりと書けています。この調子で。

(三・四段目) 小学二年 大原桂園 選評

ひかり君 のびのびとかけています。

千春君 いていねいしっかりと書いています。

真里君 元気にかけました。

はるひ君 力強さがあります。

(四段目) 小学一年 ようち・ほいく 大八木洋女 選評

ひな君 げんきに掛けています。

そう君 おてほんをしっかりと書いています。

ひなこ君 のびのびと掛けています。

浦ノ内 大友銀次郎
南 森光 美羽

野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにし、かりにこんだ。台所にカリーのかりがぶつんとたたよう。
浦ノ内 大友銀次郎

野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにし、かりにこんだ。台所にカリーのかりがぶつんとたたよう。
南 森光 美羽

野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにし、かりにこんだ。台所にカリーのかりがぶつんとたたよう。
大津 萩野 華凜

野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにし、かりにこんだ。台所にカリーのかりがぶつんとたたよう。
久重 武林 青海

須崎 小川 紗良
多ノ郷 大城 三佳

野菜担当のお父さんが切ったじゃがいもやにんじんは、やっぱり不格好だったけど、しんが残らないようにし、かりにこんだ。台所にカリーのかりがぶつんとたたよう。
須崎 小川 紗良

新聞には、さまざまな種類のニュースがのっています。新聞を読むと、社会で起きていることへの興味が広がり、読み方を身につけて、生活や学習の中で生かしましょう。
多ノ郷 大城 三佳

新聞には、さまざまな種類のニュースがのっています。新聞を読むと、社会で起きていることへの興味が広がり、読み方を身につけて、生活や学習の中で生かしましょう。
浦ノ内 宮本 莉瑚

新聞には、さまざまな種類のニュースがのっています。新聞を読むと、社会で起きていることへの興味が広がり、読み方を身につけて、生活や学習の中で生かしましょう。
久重 武林 青海

長岡 永尾 真尋
浦ノ内 上田梨里香

新聞には、さまざまな種類のニュースがのっています。新聞を読むと、社会で起きていることへの興味が広がり、読み方を身につけて、生活や学習の中で生かしましょう。
長岡 永尾 真尋

新聞には、さまざまな種類のニュースがのっています。新聞を読むと、社会で起きていることへの興味が広がり、読み方を身につけて、生活や学習の中で生かしましょう。
浦ノ内 上田梨里香

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
新莊 鍋島祐里花

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
秦 玉城 陸

夜須 白石 葵
しお見台 小松さとみ

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
夜須 白石 葵

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
浦ノ内 正木 希実

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
越知 野瀬 ちひろ

かたをすばめてつ立っていた松井さんは、何を思いついたのか、急いで車にもどりました。運転席から取り出したのはあの夏みかんです。
浦ノ内 正木 希実

大津 萩野 華凜
久重 武林 青海

浦ノ内 宮本 莉瑚
久重 武林 青海

新莊 鍋島祐里花
秦 玉城 陸

越知 野瀬 ちひろ
浦ノ内 正木 希実

長岡 内田 泰平
すさき 谷 愛莉

野ねずみたちは、にこにこなずいて、目を開けたりとじたりしながら、
すうと、とくべつメニ
ューの雨の音につつまれて
いたのでした。

野ねずみたちは、にこにこなずいて、目を開けたりとじたりしながら、
すうと、とくべつメニ
ューの雨の音につつまれて
いたのでした。

野ねずみたちは、にこにこなずいて、目を開けたりとじたりしながら、
すうと、とくべつメニ
ューの雨の音につつまれて
いたのでした。

野ねずみたちは、にこにこなずいて、目を開けたりとじたりしながら、
すうと、とくべつメニ
ューの雨の音につつまれて
いたのでした。

波介 長尾 ゆず
甲浦 原田 朋子

くれ 中ひら 千ゆ
へわ 塩見 ゆいな

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

ながおか やすいふき
へわ 戸田 さき

かみぶん 西森 美陽
おおノごう もりみつひな

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

しんじよう なべしま そう
ながおか おしおかふうか

うっばし うじはらいちの
うらのうち ふじた ゆあ

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

「や、お日さま、や
みんな、おまちどお
春風は、むね いっ
ぱいに いきをす
い、はきました。

うらのうち やのそうま
あおい おおしりりサ

○印規定・随意共通昇級

条幅

審查
福原
曉雲

(※) 印写真版

★推薦

※岡林邦心
※江西澄翠
※中平美峰
※岡本空仁

★天位

坂本絢子
弘田賀峰
西村由香
野中恵花
武内美仁
西山極山
山下枝雪
伊吹悠道
吉田深美
大嶺花梢
岩河里華
大原桂園
市原處艸
北村哲郎

★地位

津野惠泉
中城康華
池芳春

※大八木洋女
※水田紅子
※大崎紫陽

宮
藤原生鳳
深瀬綠堂
廣田香翠
岡本志峰
氏原美景
今井真理
山本瑞草
岡村妙慧
中城如抄
辻本里仙
武政幽雅
岩谷紅花
佐竹江月

★
人位

村上紅瑛
山本恵歩
高橋桜芳
岡村和子

※瀨田千代
※浜崎洋介
※中崎香
西村眞理子
利谷喜代子
河野美佐貴
龜井司郎
市川芳亭
岩村 祥
長野白水
岡田雄山
奥崎躍翠
和田 和
上田夏海
大石千施
岡林 翠
明石美桂
吉永光翠
山脇佳月
松本世津
田村昭生
芝田春琴
林 敬旭
鎌倉春葉
長尾節子
森岡康惠
山西春草
別役美佐
大野美賀
山川百合

久保地初恵

規定

審查
北代
碧山

★
師範

久禮	越知	香北	越知	★準師範	山田	仁淀川	須崎	波介	佐川	須南	旭筆	山田	南國	高知	王子	久礼	須崎	東洋	須崎
山西草皇	池芳春	萩野雨花	岡田雄山		隅田心	大八木	隅田心	江原處卿	岡本志峰	武内惠花	岩河里華	水田紅子	西山極山	山下枝雪	奧堂皓月	中平美繪	深瀬綠堂	弘田賀峰	塚地桂峰

吾桑	旭筆	旭筆	久礼	久礼	久礼	新田	多ノ郷	須南	久礼	土佐	吾桑	大野見	高知	山田	窪川	豊中	窪川	窪川	津野	津野	山田	須南	山田	越知	旭筆	旭川
高橋松芳	河村容母	原桂春	長町白木	山中紅華	畝里和華	中村里重	高橋青龍	芝田春琴	森光望春	松岡美津子	西村芳香	桑原深美	吉田智子	西内仁子	高橋朱鳥	中城知抄	逸見翠雲	廣田香翠	佐竹江月	林綠翠	今縁白木	門田恵子	奥崎躍翠	大石千施	横山桂華	片岡政徳

審查 森本 瓊象

★
六段

東洋	土佐	窪川
伊吹悠道	浜田太蔵	西村由香

★四段

旭筆	須崎	野市	窪川	室戸	東洋	津葉	窪川	高知	窪川
山口美智子	村上紅緑	山本恵歩	笠原多喜郎	魚井司郎	岩谷紅花	隅田康華	中城隼子	丸田宏子	吉永光翠

★五段

旭筆	旭筆	旭筆	旭筆	窪川	久礼	土佐	佐川	久礼	須崎	山田
濱田千代	羽役美佐佳	梅本栄山	天野喜美子	西森幹枝	広原跳秀	横山友香	矢野忠臣	明石美佳	大野美賀	岡村空仁

★
二段

審 査	津 野	須 崎	旭 筆	須 南	旭 筆	土 佐	香 北	窪 川	須 崎	窪 川
梅 川		濱 田	濱 田	山 崎	山 崎	清 水	岡 本	山 脇	横 山	武 政
桂 龍	楠 目	高 橋	貴 志	彰 二	彰 二	美 水	美 水	星 屋	みつ	幽 雅
	実 子	伸 子	敬 旭	恵 子	恵 子	充				

旭筆　旭　窪川　大野見　多ノ郷　吾桑　仁淀川　市野　仁筆　仁淀川　佐川　久筆　窪川　窪川

　　窪川　今井真理　小野山美喜　浪上理代　井口道代　大崎紫陽　鎌倉春葉　濱田順子　田村屋子　藤原朱鳳　坂本絢子　松浦明日　市川芳亭　下元玉泉皇　岡村妙豐　津野史郎　山川百合　岡澤さわ

　　辻本和也　和田　仙

出品票の名前は楷書ではっきり書いて下さい。

★出品票は黒枠をきちんと切って下さい。
★臨書は出典名を記入のこと。

旭筆 須崎 仁淀川 波介 窪川 旭筆 旭筆 旭筆 旭筆 東洋 東洋 東洋 東洋 須南 南國 南國 仁淀川 仁淀川 高知 仁淀川 ★初段	大崎美保子 川村忠子 長尾節子 岩本恵美 森岡康恵 河野美佑貴 浜崎洋介 吉井佳代 竹内京子 松島利恵 広田加代 前田千秋 奥崎千枝 藤中裕美 平原西雲 吉村久美子 宮本キン子 藤原りえ	旭筆 波介 越知 須南 旭筆 旭
---	--	---

河野美佑貴

川村忠子

岡村和子

審査 前田 秀華

秀華

★
一級

井上知勢子

大平圭子

上田夏海

井上增水

岡崎彩華

小松照代

★
二級

○吉永美知

★
四級

○高橋園江

★七級

○毛利恋花

★
新規

七級編入

橋本波美江

競書の出品について

清書の×切日

一、毎月二十日

一、清書には必ず所定の出品票を作品左下端に貼付して下さい。

※ 段位は朱字、級位は黒字で記入して下さい。

一、新規出品は、出品票の級欄に「新」と記入、二回目には編入された級を記入して下さい。

一、毎月発表の成績に○印がついたら昇級です。から次回から一階級上の級で出品して下さい。

一、規定、随意は共通とし、一方が昇級すれば双方昇級となります。

第62回 龍跳書道展ご案内と出品について

龍跳書道会長 廣末幽念

龍跳書道展執行委員長 梅川桂龍

各位

龍跳書道展も回を重ね、本年度は62回展を迎えることとなりました。前回迄の出品者並びに本年度の昇段者を参考にして出品予定者を内定いたしました。ついては下記をご熟読の上、出品をご希望の方は期日を厳守の上、出品票の提出をお願いします。

第62回 龍跳書道展要領

会 期…令和元年7月9日(火)～同7月14日(日)

9:00～17:00 (最終日は16:00迄)

会 場…かるぽーと

出品資格…龍跳書道会総務会の推薦を受けた者。

又は、出品希望者

大 き さ…特に制限しない。

形 式…額、枠、屏風、軸など自由。本表装であること。

参 加 料…8,000円

出品点数…1人1点とする。

出品票と…隅田亘心〔〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1〕

参加料の提出 又は廣末会長に **6月23日(日)** までに提出のこと。

搬 入…7月8日(月) 午前9時～11時

搬 出…7月14日(日) 午後4時(集合・3時30分)

懇 親 会…7月14日(日) 午後5時～ 高知城ホール

懇親会会費…3,000円

そ の 他…・作品は各自表装店に手配して下さい。

・出品票の釈文欄は書いた文字を楷書でていねいに書いてください。

※主 催/龍跳書道会

後援(予定)/高知新聞社・高知放送・NHK・テレビ高知・

高知さんさんテレビ

協 賛/幽玄斎・湖筆堂

第六十二回 龍跳書道展 出品予定者

(故) 大 大 大 尾 江 畝 畝 氏 植 梅 梅 岩 伊 池 今 石 市 市 岩 出 明 竹
石 城 黒 崎 西 原 原 原 田 本 川 谷 吹 橋 川 原 原 河 間 石 村
千 紫 仙 勢 澄 和 眺 美 極 榮 桂 紅 悠 芳 伯 美 實 處 里 桂 美 子
施 香 雲 葉 翠 華 秀 泉 榮 山 龍 花 道 春 水 水 堂 艸 華 堂 桂 雀

(故) (故) 笠 川 河 門 加 加 堅 片 奥 大 奥 小 岡 岡 岡 岡 岡 大 大 岡 大 大
原 崎 村 田 藤 藤 田 岡 堂 庭 崎 川 林 本 本 田 大 八 木 原 崎 野 崎
多 翠 容 惠 瑞 白 清 政 皓 桂 躍 理 邦 空 志 雄 洋 桂 緑 美 花
嘉 村 舟 子 雨 龍 園 徳 月 紅 翠 香 心 仁 峰 山 女 園 水 賀 梢

武 田 田 田 竹 竹 隅 城 芝 島 佐 坂 佐 笹 佐 國 窪 窪 熊 楠 北
内 中 中 中 村 村 田 武 田 田 竹 本 竹 岡 木 沢 田 田 谷 瀬 代
美 恵 幽 翠 雀 紅 亘 美 春 紅 江 旭 雀 香 港 恵 好 碧 晩 静 碧
仁 風 峰 仙 翠 咲 心 穂 琴 草 月 咲 園 苑 花 仙 華 泉 象 雀 山

(故) 西 西 長 中 中 中 中 中 中 中 中 時 塚 田 田 高 高 竹 谷 武 武
岡 山 町 沢 城 城 嶋 平 平 平 内 久 地 村 村 橋 橋 村 湊 村 上
知 極 白 里 康 知 邦 静 美 幸 桂 幸 桂 和 松 朱 青 瑞 龍 鳳 始
江 山 水 花 華 抄 堂 雲 峰 仙 香 雀 峰 子 華 鳥 龍 光 翠 竜 市

(故) 松 町 前 堀 別 藤 福 深 弘 弘 広 広 廣 濱 萩 萩 浜 野 野 西 西
岡 田 田 内 役 田 原 瀬 田 田 田 田 末 田 野 野 宇 津 中 島 内 村
美 碧 秀 仁 美 桂 暁 緑 民 賀 秋 香 幽 千 羽 洗 白 恵 桂 仁 芳
津 子 峰 華 峰 佐 苑 雲 堂 恵 峰 桜 翠 念 代 花 雨 峯 花 山 子 香

渡 吉 横 山 山 山 山 山 山 森 森 森 森 村 三 水 楨 松 松 松 松
辺 田 山 本 本 本 西 中 下 澤 本 本 光 上 谷 田 村 下 本 崎 崎
秀 深 桂 恵 瑞 瑞 春 紅 枝 立 寿 瓊 望 紅 萩 紅 紅 紫 美 由 緑
堂 美 華 歩 華 草 草 風 雪 華 山 象 春 瑗 霜 子 華 香 峰 依 花

◎此の外出品を希望される方は会長までご連絡下さい。

第62回 龍跳書道展出品票

◎楷書で丁寧にご記入下さい。

キ リ ト リ

※出品票は六月二十三日(日)審査日迄に必ず提出して下さい。

積 文				題 名	大 き さ	住 所	氏 名
押ピン					たて (半折・全紙横・連落等の書き方も可) cm・よこ cm	〒 (番地まで記入のこと)	ふりがな
				懇親会	形 式		
				出 席 ・ 欠 席 ○でかこんで下さい。 (変更される場合は搬入日迄に 会長迄申し出て下さい。)	額・枠・軸・屏風 (左のいずれかを○でかこむ)	電 話 () — ()	雅 号 ふりがな
					() 日の ・午前9時～午後1時 ・午後1時～5時 (最終日4時) ※連絡のない限り希望日の当番を お願いします。		
(姓 号) ()							

※作品横(又は下)に添付します。丁寧に書いて下さい。

お知らせ

●第37回安芸全国書展

美術館賞

福原 暁雲

優秀賞

北代 碧山

入選

深瀬 堀内 岡林 武内 大原 門田 西内 田村 岡本 廣末 松下 中平
 緑堂 仁峰 邦心 美仁 桂園 恵子 仁子 和子 空仁 幽念 紫香 幸仙

●第65回須崎市総合美術展

無鑑査

岡崎 緑水

前田 秀華

江西 澄翠

小川 理香

堀内 仁峰

野島 桂山

記念大賞

小川 理香

特選

野中 恵花

褒状

石川 美水

奨励賞

堅田 清園

2019年度 旭60講座風景



連絡・問い合わせ・送り先等

・新規入会申込と会費の送金先

・「龍跳誌」冊数変更の通知先

〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎一三三一

隅田亘心

龍跳書道会 燕路口図印中

01690-3-31925

電話(〇八八九) 三五〇九七一

・月例作品の送り先

〒783-0081 南州市片山四九〇

西山極山

電話(〇八八) 八六五—八八五七番

・「龍跳誌」の内容について

〒781-6410 安芸郡田野町一四五六—二九

廣末幽念

電話(〇八八九) 三八—五二〇八番

・編集についての連絡先

〒785-0010 須崎市鍛冶町六—八

江西澄翠

電話(〇八八九) 四二—三〇六七番

・送本についての連絡先

(冊数の相違等については当方へご連絡下さい。)

〒785-0055 須崎市大谷二〇四

野中恵花

電話(〇八八九) 四七—〇七二二番

あとがき

時の流れいよいよ速く、季節は春を飛越えて夏を迎えます。

新年試筆から女流展に続き、安芸全国展や諸々の市町村展を終えるやいなや、龍跳展が目の前に迫りました。そして、程無く昇段試験となり、県展へと進みます。

めまぐるしく忙しい毎日ですが、考えてみれば何もする事のない退屈な日々を送るより、ひよつとして「最も意義深い人生の時」かも知れません。そう勝手に自分に言い聞かせて「今を良し！」としています。

意外と暇の多い人より、多望な者同志が、仲良く楽しく過ごしているような気がします。

そう考えると気が「ラクラク」になりました。

月例競書課題

部 別	締切日	
	七月二十日	八月二十日
一般条幅	任 意	任 意
半紙規定	八月洞庭秋	瀟湘水北流
半紙随意	任 意	任 意
中学三年	川上の急流	海岸の散歩
二年		
一年	花鳥風月	温故知新
小学六年	谷川の水	田舎の道
五年	覚え書き	草を取る
四年	天の川	夏休み
三年	川風	台風
二年	せみ	そら
一年	うり	すな
保 育		

会 費 の 送 金 に つ い て

会 費 ：半年分 3,000円 / 1 年分 6,000円

1 ヶ月の龍跳誌郵送料

(幸便搬送の方は〒料不要)

11冊以上は次の計算による。(1 ヶ月分)

①	1冊～3冊	80円
②	4冊～8冊	150円
③	9冊・10冊	210円

〈例〉 12冊 ③+①=290円×月数
 17冊 ③+②=360円× "
 30冊 ③×3=630円× "

◎会費と龍跳誌〒料は原則として半年分または1年分前納のこと。

◎送金は次の何れかへ
 ・〒781-1501 吾川郡仁淀川町大崎133-1 隅田亘心
 ・振替口座番号 01690-3-31925 龍跳書道会
 (お問い合わせ) ☎0889-35-0971

○月号 (○冊) より○月号まで○ヶ月分
 誌代 ○円 / 〒料 ○円

と記入のこと。

編集室

廣末幽念

北代碧山

野島桂山

前田秀華

江西澄翠

中平美峰

発行人

廣末幽念(本部)

安芸郡田野町一四五六一二九

電話(〇八七) 三八一五二〇八

発行所

龍跳書道会

電話(〇八七) 三八一五二〇八

印刷所

(有)笹岡印刷所

須崎市東古市町二一六

電話(〇八九) 四二一〇二四四

月例作品送り先

〒783-0081 南門市片山四九〇

西山極山宛

電話(〇八八) 86518857